

一、貳百拾八石 同 佐見村

一、四拾貳石貳斗 山手錢共 同 上野村

合四百石者

右今度以御檢地之上被相改宛行訖。全可領知者也。

慶長三年

八月五日

秀(小早川)秋 在判

原田四郎左衛門どのへ

八月八日。前田利家、豊臣氏の五奉行に、再び秀頼に對する忠誠を誓ふ。

【國初遺文】

二一五〇

敬白天罰靈社起請文前書之事

一、今日御直に被仰出趣、少も不存忘、秀頼様御奉公可仕事。

一、肥前守へ御誂之通、具に申聞候。是又秀頼様御奉公之儀、疎意不存事。

一、以御隱密被仰出儀、不可致他言事。

右之條々、若私曲偽於申上者、忝も靈社起請文之御罰深厚可罷蒙者也。仍而前書如件。

加賀大納言

慶長三年八月八日

利(前田)家 血判

德善院玄以法印

淺野(長政)彈少弼殿

増田(長盛)右衛門尉殿

石田(三破)治部少輔殿

長東(正徳)大藏大輔殿

八月九日。前田利家、岡田長右衛門等に、檢見に就いて令す。

【菅原村行長文書】 羽咋郡

二一五一

重而此地へ相尋候事無用候。加州之算用相濟、今は能州口郡之算用仕候由、尤候。早々氷見へ可罷越候。早田・中田・晚田ニ至迄、少も物成をぬがし候ては可爲曲事候。代官之者共ニ此旨可申聞候。算用方相究次第ニ可上洛候。將亦彌介知行ニ代官を付納可置候。又林辰左衛門尉、あた

か成内ニ女子召連、早々可罷上候旨可申付候。右何も不可油斷候。恐々謹言。

慶長三年

前田利家 ちくぜん 在印

長右衛門殿

種善坊

八月十日。前田利家等豊臣氏の諸大老、秀吉の病中は知行方その他仕置等を改めざるべきことを契約す。

【毛利家文書】

二一五二

條々

一、上様長々御煩付而、御失念も在之様ニ御座候間、御知行方其外御仕置等之事、敢前被仰定ごとくたるべき事。

一、自今以後之儀者、如何様之儀被仰出候共、御請は先申上、以御本復之上礎得御誂、可隨其之事。

一、御知行方并御仕置等之事、今度重疊被仰出、以誓昏相定候通不可有相違候事。

以上

慶長三年

八月十日

利(毛利)家 元

秀(宇喜多)家

利(前田)家

利(備前)家 康

九月三日。前田利家等豊臣氏の諸大老諸奉行、更に秀頼に忠誠を誓ふ。

【淺野家文書】

二一五三

敬白天罰靈社上卷起請文前書事

一、秀頼様御爲存候上者、諸傍輩ニ對し私之遺恨を企、不可及存分ニ事。

一、此連判之衆中ニ對し、誰々讒言之子細在之共、同心不可申候。何時も直ニ申理、可隨其ニ候。自然不相屈儀承付候者、無隔心可令異見候。事ニより同心無之候共、遺恨ニは存間敷事。

一、傍輩中不可立其徒黨候。公事篇喧嘩口論之儀雖有之、親子兄弟縁者親類知音奏者たり共、依怙最眞不存、